

五所商高が移転 賃貸契約協定を締結

町と五所川原商業高校を運営する学校法人下山学園（下山美智子理事長）は4月10日（月）、3月末に閉校した鶴田高校の土地・建物の使用貸借契約と地域発展や人材育成に協力する包括的連携協定を締結しました。4月11日から五所川原商業高校の新年度授業が旧鶴田高校舎でスタートしました。

協定締結式で相川町長は「両者の資源を最大限活用し、地域の発展と人材の育成を進めたい」とあいさつ。下山理事長は「創立70周年を迎える節目の年にこのような協定を締結し、身の引き締まる思い。地域に密着した学校運営に一層努力していきたい」と抱負を語りました。

同校によると、移転後はスチューベンを使った商品開発や地元のイベントへの参加、鶴田高校生が行っていた「鶴の舞橋写真コンテスト」を引き継いで実施する予定。また、町は姉妹都市のフドリバー市との交流支援や外国語指導助手の派遣などを考えています。

学校法人下山学園との土地建物等使用貸借契約と包括的な連携に関する協定の締結式



△土地建物使用貸借契約などを取り交わした下山理事長（左）と相川町長（右）

期待に胸を膨らませて入学式

4月7日（金）、鶴田小学校で令和5年度の入学式が行われ、77名の新1年生たちがこれからの学校生活に心躍らせていました。

教職員や保護者らの拍手で迎えられて1年生が入場し、式内で担任教諭から一人一人名前を呼ばれると、元気いっぱいに「はい！」と答えていました。



△新1年生代表としてあいさつした児童たち

新一年生を見守る 交通安全街頭啓発

新入学時期に合わせて4月10日（月）、町交通安全協議会（須郷耕二会長）と町交通安全母の会連合会（奈良順子会長）が鶴田小学校校門前で交通安全街頭啓発を行いました。

参加者たちは登校する児童らに声かけを行ったり、旗を持って横断歩道を安全に渡らせるなど、入学したばかりの新1年生の登校を見守りました。



△新1年生の登校を見守る参加者たち



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

子どもたちが地球環境を考える1日

4月15日(土)、地球環境について理解を深める「アースデイ 2023」が国際交流会館で開催され、町内の小学生19人が参加しました。

今回のアースデイは、町国際交流員のジャック・イングリッシュさんとジェイコブ・シオルティスさんが中心になって企画。イベントではアースデイの歴史や意義を説明した後、ビニール袋を使ったブレスレット作りやごみとして捨てられる物を使った遊びが行われ、子どもたちは普段何気なく捨てているごみの再利用について学び、これからの地球環境について考えていました。

アースデイとは…1970年にアメリカで始まった、地球や環境のことを考え、美しい自然環境に感謝する1日とされています。



△アースデイに参加した子どもたちとつるりん

鶴田に恩返しをしたい 車いす寄贈

4月21日(金)、関東地方に住む鶴田町出身者でつくる「ふるさと鶴田会」(工藤一雄会長)が道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」に車いす1台を寄贈しました。

工藤会長は鶴田町をPRしようと、昨年からは東京都の各所で町特産品のスチューベンジュースや県産品などを不定期に販売してきました。仕入れ先である同駅に恩返しがしたいと、今回売り上げの一部で車いすを購入しました。

同駅で行われた贈呈式では、工藤会長から一戸駅長へ車いすが手渡されました。工藤会長は「今後も物産の販売を続け、町などに恩返しをしていきたい」と話していました。

贈られた車いすは、同駅の農産物直売所入り口に設置されました。



△車いすを寄贈した工藤会長(左)とそれを受け取った一戸駅長(右)

地域おこし協力隊通信

Vol.53 (筆: 川口翔大)

皆さま、「季刊あおもりのき」という雑誌はご存じでしょうか? 青森県の芸術やアート、文化などを特集している、季節に一回発行される雑誌です。協力隊の活動からつながったご縁で記事を寄稿させていただきました。一回目は「サイトウパピコ」さん、2回目の今回は「サトウ商事」様を取材し、記事を書かせていただきました。

町民の皆さまはご存じかもしれませんが、お正月のしめ飾りで全国的に有名な同社は、野球チームとのコラボ商品の製造や大学生とのワークショップを企画したりと、とても精力的な企業でした! 今回は「お盆とうろう」についての記事を書いていますので、興味のある方は読んでみてはいかがでしょうか。



△川口さんが記事を寄稿した「季刊あおもりのき」

川口さんの SNS



Twitter



facebook

地域おこし協力隊の活動内容は、SNS・町ホームページでも確認することができます。